

第二章 横濱市

一、一班情况

之を一縣よりして云へば、其首都にして政治經濟の中心、之を帝國より見れば、其關門にして主要の貿易港なりし横濱市が、震火災に依りて蒙りたる慘害は實に甚大なりしなり。大正十二年九月一日は殘暑猶未だ餘焰を收めず、朝來驟雨數々到りて、天候唯ならず、人をして一歲中の厄日二百十日の前目を憶はしめたるに、午前十時頃に至り、雨歇み風收まり、一天拭ふが如く、涼氣浮動して、目にはさやかに見えぬ初秋の到來する感ありき。日午に近く、家々にては人々午餐に忙がしからんとする時、俄然として大地震動し、屋舎倒壊し、大厦高樓相ついで顛覆し、濛々たる沙塵は街衢に滿ちて咫尺を辨ずべからず。破壊の音、叫喚の聲、死屍累々として、傷者は勝げて算ふべからず。此世の破滅なるやを疑はしむ。須臾にして烟焰四方に起り、燎原の勢を以て延焼し、呻吟せる傷者を殺し、逃げ惑ふ避難民に迫り、更に流れ出づる重油に燃え移りて、海上は火焰と化し、水道破壊し又消防の便なく、通信機關全滅して救援の途絶えたり。渦卷く烟、逆卷く焰の凄じき間に餘震頻々として到り、生き残れる人々も安き心とはなし。午後三時の頃となりては、風勢愈々烈しく、延焼區域は次第に擴大し、紅炎々たる猛火は團々として天を焦し、中村町にある縣揮發物貯庫に蓄へたるものを始め、市内各商店に貯藏せる揮發物は火を得て爆發し、其聲巨砲を放つが如く、聞くもの震慄せざるなし。斯くして火は二日に涉り、其被害面積は横濱市内宅地面積四百九十萬坪の内三百九十萬坪にして、總面積の約八割と云ひ、東西約一里、南北約一里半の廣きに及び、全焼せる町數八十ヶ町、半焼せるもの二十ヶ町、焼失家屋は五萬五千十九戸、死者二萬三千四百四十人、行方不明者約三千八百八十三名の多きに達せり。

官廳の倒潰せるものは、横濱地方裁判所、横濱税關、横濱郵便局、神奈川縣港務部、遞信省航路標識管理所、横濱刑務所、加賀町、伊勢佐木町、山本町、横濱水上の四警察署にして、何れも多數の死傷者を出さざるなく、其の最も甚しきは横濱地方裁判所にして、末永所長以下百餘名の壓死せるは、酸鼻の極と云ふべし。市街の被害は概ね伯仲の間に在りと雖も、舊居留地即ち山下町一帶は特に慘禍を蒙りたるに似たり。其建築物の多くは石造又は煉瓦造なりしを以て第一強震の爲に算を亂して倒潰し、屋内に在るものは殆んど避難の遑なくして壓せられ、街上の通行者も亦兩側家屋の破壊に伴ひて死傷相接ぎ、哭聲街衢に滿てり。グラント、ホテル及オリエンタル、ホテルは在留外國人の樂園にして、此日も午餐の爲に集へる士女少からざりしに、激烈なる震動の爲に、さしもの大厦も天地に轟く大音響を發して物の美事に倒潰し、居合はせる人々は皆下敷となり、救ひ出すを得ず、忽にして厨房火を發して、須臾にして灰燼に歸せり。當時火中より僅に身を以て脱したる一婢僕の説に依れば、來賓外人の死するものは百に上るべく、雇人約八十名中の十中八九は壓死したりと云ふ。以て其災害の甚大なりしを想ふべし。

全市を擧げて地震に襲はれ火焰に鎖され、混亂其極に達したるを以て、殆んど手のつくべき様もなし。森岡警察部長は横濱公園内に急速設置したる救援本部に赴き、應急處置に關する諸般の指揮を下し、午後三時烈々たる猛火の間を潜りて縣廳に引返せば廳の内外は避難民を以て填塞するの狀あり。恰も南に隣れる農商務省生糸検査所を舐めたる火焰は更に警察部に燃え擴がらんとす。事急にして刻一刻を待つべからず。乃ち構内の避難者を導いて横濱公園に急馳せんとし、縣廳正門を出づれば行手は一面の火の海にして、通路梗塞、復た救護本部に到るべくもあらず。是に於て路を轉じて老幼避難者を扶けて、煙焰の裡を突破し、横濱税關西門に至りて、纔に難を新港岸壁に避く。然るに須臾にして税關倉庫は一團の焰を吐き、コンクリートの路面は到る處大龜裂を生じ、頻々たる餘震に裂口は開閉し、人を呑まんとするが如し。見渡す海上には重油浮流して盡く火焰と化し、波のまにまに漂ひて、岸壁も到底身を托する

所にあらず。斯くと見るより部長は身を挺して海に投じ、手近の汽艇に泳ぎ着き、轉じて港内に碇泊する汽船コレヤ丸に搭じ、港内に浮べる汽艇を督勵し、沿岸を巡航して、危難に瀕する老幼婦女子又は海水に浮きつ沈みつして溺れんとするものを救助して之を碇泊せる各船に收容せしめた。部長は通信機關全滅したる時なるを以て全船の無線電話を以て、内務大臣及警視總監に對して救援を申請せんとし、船橋無線電信所へ向けて發信したるも、同所よりは東京に送電の途なき旨回答あり、是に於て東京市も亦災禍に遭へるを知れり。乃ち港内各船の無線電信に一時中止を命じ、コレヤ丸の無線電信を以て大阪、兵庫、千葉、茨城の各府縣知事、横須賀鎮守府、同軍港碇泊中の軍艦及大阪朝日大阪毎日の兩新聞社に向け、左の通信を發せり。

本日正午大地震起り、引繼き大火災となり、全市殆んご火の海と化し、死傷何萬なるやを知らず、交通、通信機關不通、水、糧食なし、至急救済を乞ふ。

さて食なく水なく饑渴に逼つて生死の巷を彷徨する多數の罹災者を如何にすべき、焦眉の急は眼前にあり。偶々負傷して同船に避難し居れる齋藤東洋汽船株式會社調度課長は自ら進んで罹災者救助の爲め同船に貯藏せる食糧全部を提出すべき旨申出し、直に炊出しに着手するを見て、警察部長は其臨機應急の措置を喜び、罹災者に代つて厚く感謝の意を致すとともに、港内碇泊の各汽船々長に對し、無線電話を以て、左の如く申込あり。

陸上の罹災者救助の爲め炊出しの要ありと認め、本船に於ては食糧全部並に貨物米をも提供し、明朝陸上に分配することに決定せり。貴船に於ても人道の爲め之と同様の處理を乞ふ、猶決定次第何分の御返事を乞ふ。

此の報に接した各船は何れも之を快諾し、競つてコレヤ丸と同じく罹災民救助に盡瘁したるを以て、數萬の罹災民は飢渴を免かれ、安全なる船内に數日を過すことを得たり。

市内に於ける震災當時の状況を見るに、山下町は舊外國人居留地に屬し、此には外國商館櫛比し、外國領事館も多

く此地に在り、此地域に接して、關内と稱する本町以下十三箇町は、貿易に従事する豪商軒を列ね、縣廳其他の諸官衙は其間に聳立し、街頭にはいづれも煉瓦造石造の大厦高樓臺を比べたりしが、第一震に依りて倒潰し、繁華火の如く錦に似たりし民衆娛樂地域たる關外伊勢崎町方面及商業區域として殷盛を極めたる埋立地方面は其建築上の關係よりして、やゝ瓦解の速度は緩慢なりしとは云へ、倒潰顛覆せざりしものは殆んぞ免れざりき。要するに第一次の大震とともに、あらゆる建物は倒潰し粉碎し、架空の電線は切斷し、路面は龜裂し、水道は破壊して、噴出せる水は氾濫し河線の護岸は崩落し、橋梁は墜落し、構造の堅固を以て聞えたる稅關棧橋も、巨船の繫泊したる新港岸壁も一朝にして無残にも破壊し、灣頭に半圓を描ける防波堤も陥没し、僅に港の入口に双々相對した紅白兩頭臺が其一部を留めてありし日の倂を偲ばせるのみなりき。

市中の慘狀は酸鼻を極め、破壊崩落とともに、塵濛々として一天を蔽ひ、阿鼻叫喚の聲は巷に滿ち、死するもの傷つくもの勝げて計ふべからず。就中官廳にて最も多く死傷者を出せるは、横濱地方裁判所にして末永所長、福鎌檢事正代理、判檢事其他の所員を初めとして、訴訟關係者傍聽人に至るまで百數十名の多き、或は即死し、或は氣絶し、或は傷き、伏屍累々たり。市中の到る處は斯くの如き慘狀を現出したる間に、妖火焰を噴き、煙を揚げ、陣一陣と吹き荒ぶ烈風に煽られて、見る／＼うちに天を焦し、旋風の過ぐる所、火柱は天に沖し、燒亞鉛板は半空に舞ひ、火線は或は合し或は岐れ、物として燒かずんば已まず。東西南北を狂奔する避難者は危難を冒して救助に奔命せる警官の指導に依りて、僅に横濱公園に、山手公園に、久保山に、掃部山に、其他適當なる地點に遁れたるを以て、市中の空地、廣場、高所は忽にして蝟集せる避難者を以て、立錐の餘地なきに至りたり。然れども發火場所の多數なりしと、火勢の激烈なりしと、かねて道路の破壊、橋梁の墜落とは、夥多の燒死者と溺死者とを出した。其中最も多く慘死者を出せるは、南仲通横濱正金銀行、日の出町崖下、黄金町末吉橋附近にして、各々二百餘名を算し、梅ヶ枝町東本願

寺別院前にては三百五十有餘名の死者を出し、中には端坐合掌したる儘焦死したるもの少しとせず。到る處死屍算を亂したるのみならず、大岡川吉田橋附近に繋留せる五大力船及納涼所に避難したる約五百名は猛火水を越えて船を襲ふに及び、争ひて水中に投じ、悲鳴して救助を求むるの聲、火勢の烈々たる音と相混じ、遂に溺死するもの相接ぎ伏屍相累りて水爲に流れず。其の凄絶悲絶なる洵に言ふに忍びざるものありしなり。

二、加賀町方面

此方面の地域は市の南東部に在りて、西北は大岡川を隔て、關外並に埋地一帯に接し、東方は東京灣を控へ、南は山手一帯の丘陵に對し、地域内の戸數約五千七百四十六戸、人口約二萬六千六百二十五人にして、其内外國人は約五千五百四十四人あり。此地域に屬する繁華の町には本市の目貫とも云ふべき本町通あり、辨天通、太田町、住吉町、尾上町通あり、馬車道あり、海岸通、水町通、本村通、加賀町通ありて、いづれも大商店櫛比し、街衢整然たり。貿易關係の大商店は概ね此地域に店を構へ、其大なるものには、外國商に英商「デヤードンマゼン」商會（輸出入）、米商「セールフレザ船舶、保險等」「サミュル、サミュル」商會（輸出入、船舶、保險等）「ストヒム」商會（輸出入）、米商「セールフレザ」商會（同上）内商に三井物産會社横濱支店（生絲及雜貨、輸出入等）澁澤商店（同上）等あり、商業議事機關には横濱商業會議所、外國人商業會議所、中華商務總會等あり、内外の官公衙には山下町内に英、米、佛、支等二十二ヶ國の領事館あり、神奈川縣廳、横濱稅關及横濱市役所あり、横濱地方裁判所、横濱郵便局、中央電話局、遞信省航路標識管理所、同海事部横濱出張所、農商務省生糸検査所、同羽二重検査所、同植物検査所あり、海運事業には日本郵船株式會社、東洋汽船會社、大阪商船株式會社支店等あり、金融機關の重なるものには、香港上海、チャータードインターナショナル、横濱正金、第一、第二、第三、第十五、第百、住友、左右田、若尾、渡邊等の各銀行若くは支

店あり、社交機關には外國人側に、在留各國人の重なるものを以て組織せるユナイテッド俱樂部を始めとし、支那人の親仁會、華僑俱樂部及三江公所あり、邦人側に横濱社交俱樂部あり。ホテルの宏壯なるものにはグラント、ホテルオリエンタル、ホテルあり、有名なる割烹店には千歳、八百政あり、言論機關には横濱貿易新報、横濱毎朝新報、ゼ、ジャパン、ガゼットあり。教會には基督教海岸教會、横濱基督教青年會館、措路教會等あり、輪奐の宏麗を以て聞えたる建物には横濱開港記念會館及インターナショナル、ビルディング（萬國館）あり。

震災當日は恰も土曜日に際し、外國商館はいづれも午後に至りて休業するを例とするも、時猶午前中に屬したりしを以て、各方面とも活動中にあり。税關棧橋には此日正午を以て、解纜して新香坡に向ひて發せんとする汽船エムブレス、オブ、オーストラリヤ號あり、新港岸壁には九月二日桑港に向はんとするコレヤ丸ありて、之が乗客には見送人の棧橋新港附近に群集するあり。エムブレス、オブ、オーストラリヤ號にては五色の惜別箋日光に映えて翩翻したりし際、俄然大地震動し、海波簸揚するとともに棧橋は一部墜落し、新港岸壁は一部崩壊し、續いて起る團々の火焰別離を惜む處は變じて死別生別を兼ねる修羅場と化し、或は焼死するもの或は溺死するもの勝げて算ふべからず。更に山下方面はと見るに、此等の石造煉瓦造は、多く明治初期の建築にかゝり、年慮久しきを経て朽腐したるを以て第一震とともに崩潰倒壊するもの相つゞき、就中山下町の俚俗呼んで南京町と稱する支那人（重に廣東人）の商店櫛比せる一部は、其建物の脆弱なるに加へて、道路狹隘なるを以て、身を以て免るゝに遑なく、在留支那人四千人中約半数は壓死若くは焼死するの慘鼻を極めたり。關内及元町方面は建築の關係上、之を山下町に比して甚しからざりしも南仲、北仲、元濱、相生、眞砂、常盤町及元町方面は道路頗る狹隘なるが爲め、纔に壓死を免れたるものも火焰の包圍する所となり、敢なくも焼死するもの多く、馬車通横濱正金銀行附近の如きは伏屍累積山をなすの狀ありき。

東より西よりするもの、火に逐はれ、水に悩まされ、僅に一條の活路を横濱公園に求むるの其幾萬なるを知らず。

然し此も亦安全の境に非ず、四周より火の粉は降り濺ぎ、熱氣人に逼りて面を向くべきやうもなく、幼者婦人は悲鳴を揚げて助を求め、叫喚の聲天地を震はさんばかりなる間に、旋風中に起り、天に舞ふもの落下して雨の如く、加ふるに水道鐵管破裂して、出水腰に及べり。然れども樹蔭と此水とを得て、多數の人々は辛くも其一命を取り止め、公園内の死者が寥々なりしは、蓋し天幸と謂ふべきなり。山下町の南端堀川を隔て、新山下町の埋立地あり、其面積は道路を除いて八萬三千坪ありて、何等の建築物もなかりしを以て、山下町元町及山手町方面より此處を指して避難するもの絡繹織るが如かりしも、やがて海嘯來襲の流言ありて、又避散したるを以て一夜を此に明したるものは、僅に一千名内外に過ぎざりき。凄慘の状はいづれのところも同様にして、満市、唯是れ一場の廢墟を演じたりしが、中にも山下町前田橋附近にある米國海軍貯炭所の石炭約四萬噸は、震災後二日餘に及びて、猶盛に火焰を噴きつゝありしなり。

三、山手本町方面

山手本町警察管内は南部に屬する一帯の地域にして、其北端は丘陵にして、其上には、外國人の居留地たる山手町あり、南方本牧及根岸海岸に到る間の低地は即ち北方、上野、千代崎、諏訪、山元町並に山根岸一帯の地なり。此方面は地盤鞏固なるが爲にや被害輕微なりしも、山手町方面の丘陵上は、傾斜面多く、盛土して建築したると、洋館の建物多かりしを以て、第一震とともに殆んご舉げて倒潰せり。其重なる建物は山手本町警察署、秘露公使館、西班牙公使館、智利、玖馬、佛蘭西（以上全燒）、墨西哥（全潰）等の各領事廳、外人劇場「ゲイテ」座、英米兩國海軍病院一般病院、クライスト教會、ユニオン教會、テンプルコート、ブラフホテル、ローマカトリック教會、フエヤメント

ホテル等にして、何づれも多大の被害を蒙れり。處々に起りたる火災は周圍に空地多く、樹木鬱蒼たる此丘陵をも焦土に歸し、山手町一帯の高地は空しく茫々たる廢墟に化したるが、人家の密接せざるが爲に難を山手公園に、根岸町鷺山方面に、新山下埋立地等に避けたるを以て死者は少かりき。且つ此地に居住する外人多くは山下町若くは東京等の店舗に出勤して家に在らざりしと、例年夏季は箱根、日光、輕井澤等に涼を趁ふの習慣ありしを以て、被害の程度に比して其死傷者は多からざりき。山手町に於ける焼失戸數は總て六百三十六戸と注せらる、警察署倒潰の際には、署長以下約十名は下敷となり、其内警部補以下三名の死亡、數名の傷者を出したりき。

山手町は、其地たる丘陵なるを以て、斷崖の崩潰したるものあり。俚俗呼んで「見晴し」と稱す。約四十尺の高處にあり、遠く房總半島を煙波縹渺たる間に望み眺望絶佳なり。其斷面はコンクリートにて固めたりしが、約三十間は道路の一部分を残して殆んど六尺ほゞ沈下し、車馬の交通を杜絶さし、コンクリート以外の斷崖は約七十間大崩落し崖上の外人住宅二戸、邦人住宅一戸は四十尺下の崖下に顛落し、粉微塵となれり。

諏訪、上野、千代崎町の全部、北方、本牧、元町、根岸町の一部は小商店と小住宅櫛比せるが爲に瞬く間に二、七、七三戸を猛火一煽して烏有に歸せり。但し根岸町海岸加層方面は被害少く、根岸町の内字相澤、江吾田、柏葉、本牧町の内大澤谷戸、大鳥谷戸及山元町は被害の輕微之に次ぐ。

四、伊勢佐木町方面

此方面は市内歡樂の巷にして、伊勢佐木町通は行人織るが如く、各種の興行物、百貨店、銀行、割烹店、飲食店櫛比し、其繁華は火の如く錦の如かりしなり。此熱鬧なる伊勢佐木町通を中心として、市の中央部三十八ヶ町は此部内

に屬し、其中南太田町丘陵上の久保山一帯の住宅地と、弘明寺町及井土ヶ谷町との一部を除けば、いづれも般賑の地にして、横濱市に於ける唯一の娛樂境なりき。されば日夜士女の歡樂の影を趁ふもの絡繹として絶えず、活動寫眞館劇場、割烹店、百貨店を初め、雜貨を沾るもの、飲食物を嚮ぐもの、櫛比し、伊勢佐木町に接して教坊あり、絲竹管絃の響湧くが如く、野毛通、吉田町通も往來頻繁にして、櫻川を越ゆれば、櫻木町通ありて、櫻木町驛、東横濱驛あり、横濱商品倉庫、横濱市教育會、神奈川縣農工銀行、海外渡航者検査所、横濱市中央職業紹介所等あり、井土ヶ谷弘明寺方面は銷金窩として別天地の觀を呈せり。

震災は幸に日中しかも午前中なりしを以て、各種の興行物は未だ觀者を集むるに到らず、不幸中の幸なりしと雖も此部内に於ける死者は約一萬二千五百五十三人、傷者約二萬四百四十九人、行方不明約二千百人を出したりき。若し之をして夜間の出來事とすれば、其死傷するもの殆んど算なけん。當時開場するものは僅に横濱角力常設館、喜樂座、朝日座、文樂館のみなりしが、入場者は猶寥々たりき。喜樂座は激しく倒潰せるを以て、死者三十名を出し、常設館はやゝ緩慢なりしを以て約十名、朝日座は約四名を算すべく、文樂館は僅に倒潰を免れたり。伊勢佐木町警察署、左右田銀行松ヶ枝町支店、長者町郵便局、南太田町にある私立中學關東學院、株式會社服部紡績會社、井土ヶ谷町にある横濱屠場株式會社、横濱撚絲織物株式會社等は、いづれも見る目も無殘なる崩潰をなし、長者町郵便局に於ては五十名、服部紡績會社に於ては十六名、左右田銀行に於て十二名、野澤屋吳服店に於ては二十六名、越前屋吳服店に於ては七名の壓死者を出したりき。

狂ひに狂ふ猛火の追ふ所となり、進退谷まりて、累々たる死屍を留めたる處には、黄金町三丁目、末吉町附近鐵道省電車大船延長線の軌道敷地内に於ける二百名以上と、梅ヶ枝町東本願寺別院構内に於ける三百五十名以上の燒死者を末吉橋附近の河中と吉田橋附近の河中とに於ける多數の溺死者なりき。恰も當時黄金町三丁目省電軌道は工事中に

際し、軌道敷地は廣場なりしを以て、某附近にある住民は我勝ちに活路を此地に求め、其中には家財を此に搬出して震動の靜まるを待てり。然るに初音町黄金町方面の火は四面天を焦し、南東の烈風に煽られて、見る間もあらず、軌道敷地を包圍し、避難民をして此世からなる焦熱地獄に擠れ、焼死するもの算を亂し、此附近の河岸通りにありたるものとして同じく悲惨なる運命に陥らしめにき。梅ヶ枝町東本願寺別院は附近の民屋が一齊に倒潰せる中に儼然として屹立し、構内には約六十坪の廣庭ありたるを以て、此に逃げ來りたるも頗る多かりしが、姿見町、蓬萊町方面より起りたる猛火は驀然として襲來せるを以て、屈竟の男子若干は烈々たる火焰を突破し、一條の血路を開きたるものありしも老幼婦女子及負傷者は手を束ねて、庭内に累々と屍を伏すの悲惨事を現じ、約三百五十名の焼死者を出したりしが、其内の多くは實に老幼婦女子なりき。

關内の一部及伊勢佐木町方面の人々は一時争ひて吉田橋々詰の廣場と兩岸の街路に避難せるが、火焰逼るに及び、他に移ること能はず、石橋の上に群がり或は身を船舶の中に投じて急を避けたるも、猛火は容赦なく、之を包圍し、降りかゝる火の粉は雨の如く、衣を焼き、膚を焦し、群集は押し合ひて河中に陥り、船ははち切れるばかりの人込みで、顛覆し、其の顛覆せざるものに、人も船も焼き盡されて、空しく殘骸をのみ留めた。されば河中に堆積せる死屍は累々として、其數勝げて數ふべからず。

土地の龜裂陷没は隨處に之れあり、其の最も甚しきを伊勢佐木署附近及吉田川沿岸の電車軌道とす。此部内に於ける死者は約一萬二千百五十三名、傷者約二萬四百四十九名、全燒一萬四千六百九十五戸、全潰四百八十一戸、橋梁の墜落燒失するものは十九個所なりとす。

五、壽町方面

壽警察署所管は二十七ヶ町にして、其内埋地十五ヶ町と石川町とは商業地に屬し、市内繁榮の地なり。殊に龜ノ橋より、蓬萊橋を渡り、伊勢崎町署部内に入る龜ノ橋通と、東橋より千秋橋を越えて伊崎佐木町署部内に入る長者町通及花園橋より南吉田町千歳橋に達する扇橋通の一部とは此部内に於ける中心地を形づくり、扇橋通に接せる永樂町眞金町に跨りて眞金町遊廓ありて、花明柳暗の巷をなし、市電八幡橋線に沿うては、縣揮發物貯庫、同爆發物貯庫、横濱刑務所、横濱市電氣局等あり。龍頭町及磯子町は近時住宅地として急激に發展し、磯子には偕樂園、磯子園等の割烹店ありて、四時客を迎へ、殊に夏時には涼を趁ふもの絶えず。大岡通は新開せる住宅地として繁榮し、大岡町弘明寺終點附近には弘明寺觀音、高等工業學校、商工實習學校等ありて、殷賑觀るべきものあり。

管内震災前の戸數は二萬五千九百五十八戸、人口十一萬四千五百四人なりしが、震災に於ける被害狀況は、燒失町數二十四ヶ町、同戸口一萬七千四百七十八戸、全潰戸數一千四百九十六戸、壓死者八百五十一人、燒死者七百七十人行方不明者一百二十九人を算し、橋梁四十ヶ所中、燒失及破壊せるもの十三、半壞十ヶ所に及ぶ。其の最も激烈に震災を受けたるものは、所謂埋地と稱する吉濱、松影、壽、扇、不老、萬代、長者、富士見、山吹、眞金、永樂、山田、千歳、三吉の十五ヶ町及南吉田町一帯の地にして、地盤の軟弱は第一震とともに、大半以上の建物を倒潰したるのみならず、猛火は容赦なく之を灰燼に歸したるなり。其の僅に火難を免れたるものは、岡村町、根岸町、山手町のみなりき。同署部内に於ける中心地としての埋地一帯は一望荒涼の焦土と化し、之に亞げる繁華の地大岡、蒔田も殆んど燒燼し、磯子のみは其中央の一部を燒いて、幸に免るゝを得たり。

吉濱町石炭置場、横濱刑務所、眞金町遊廓、吉田小學校庭内、石川仲町三丁目、中村町及磯子町はいづれも、悲絶慘絶の光景を露出したるが、其中、吉濱町石炭置場は面積一千貳百坪ありて、吉濱町の東南隅に位し、大岡川と中村川との會流地點にありて、神戸山下汽船株式會社所有の石炭約一千噸と吉濱町十四番地石炭商中村廣一所有の石炭二

百五十噸とを藏せり。震災に脅かされたる吉濱町附近の住民は争ひて此廣場に蝟集して難を避けたるが、突如として火災の此附近に發するを見て、此地帯の危難に瀕するを感じ、他に轉移せんことを警告するものもありしが、避難者は此地が大正八年埋地の大火に事なかりしを回顧し、敢て他に移ることを欲せざりき。然かも焰々たる猛火は廣場内一隅の建物及石炭に燃え移り、熾んに炎を吐き、加ふるに對岸石川町及山下町方面の炎熱は到底面を向くべき様もなく、僅に河中に身を投じて免れたる少數者を除いて、約百五十名は無殘にも燒死したり。眞金町遊廓内大町通に當る同町一丁目八番地街路は道幅八間なりしが、其中間に當りて約五六間陷没し深さ二尺五六寸許の水溜あり。附近の居民中逃げ後れたる少數の者は争つて此水溜に身を没して生を繋がんとしたるも、固より涓滴の以て猛火より極ふべきことに非ず、遂に二十三名は此に無殘なる燒死を遂げたり。南吉田町八百五十八番地第三南吉田小學校々庭は面積千坪を有したりしが、校舎は震動とともに倒潰したるも、附近の住民の多くは此に難を避けたりしが、炎焰四方に起るを見て、概ね他に轉移したりしに、他の警告を聽かずして、荷物等を固守して留りしもの三十名は爲に焦爛して死するに至れり。

眞金町遊廓は眞金町及永樂町に方二萬坪の一廓を劃し、之を繞らすに板塀を以てし、其裡に貸座敷等を營むもの八十三戸ありて、いづれも綺閣高樓ならざるはなく、第一震とともに其多くは倒潰し、此に多數の壓死傷者を出したりしが、間もなく廓外より發したる劫火は廓内を一舐にし、全廓擧げて焦土となり、震災前の廓内人口娼妓一千二十七名中、死者百四十四名、營業者及雇人六百八十七名中百五名を出し、其内、永樂町神風樓事山口美代方には二十三名同町二葉樓事原田すい方にては十九名、同町いろは樓事林金藏方にては二十六名の多數死者を出しき。

根岸町横濱刑務所は堀割川に面して、四方繞らす煉瓦塀を以てし、此構内に在る建物大小八十棟中二十八棟及煉瓦塀は強震の爲に俄然顛覆し、囚人一千百三十四名中五十三名の壓死者を出したりしが、午後三時頃附近よりの飛火

に依りて建物全部は灰燼に歸したり。

斷崖の崩壊に依る被害は、磯子町千六百六十六番地割烹店偕樂園葦名キン方裏手高さ四十丈の斷崖は幅約百十間崩潰し、同家二階建二棟の各一部を埋没し、雇人十六名は其下敷となりて、雇人十六名壓死し、更に同家の隣戸なる人力車營業人三好家事渡邊爲吉方平家一戸をも埋没し、家族三名は壓死を遂げたり。石川仲町三丁目四十八番地斷崖高さ三丈幅一丁崩潰して、崖下の人家五棟十五戸を埋没して、約十五名は壓死し、中村町一千二百三十一番地斷崖高さ十二丈幅二十間崩潰し、麻真田工場淺村庄藏方一棟埋没し、一名を殺し外二棟の一部を破壊し、同町一千三百四十六地斷崖高さ五丈幅五十間崩潰し、人家六棟九戸を埋没し十一名を殺し、同町一千三百四番地斷崖高さ十丈幅三間崩潰して、人家一棟一戸を埋没し、三名は壓死せり。

地面の陥没せる處は、埋地と關内との間を流るゝ大岡川、埋地の中間を流るゝ日出川、埋地と中村町、石川町との間を流るゝ中村川、堀割川、大岡川町の沿岸には大龜裂を生じ、若しくは陥没し、又は護岸の河中に崩れ落つるもの多く、就中新吉田川の沿岸は特に被害を多しとなす。

此管内に於ける重なる焼失建物は、神奈川縣第二衛生試驗所、壽警察署、神奈川縣揮發物貯庫、橫濱刑務所、橫濱市電氣局、高等工業學校、商工實習學校等ありとす、其中揮發物貯庫は二十八棟の多きより成り、内に石油、機械油、パラフィン油、松脂精、揮發油、酒精、カーバイト等多量を收藏したりしが、附近よりの飛火に依りて火災を起し、火は瞬く間に揮發物に移り、大爆發して、物凄き慘狀を現じたりき。

六、戸部方面

此部内に屬する市部は二十八ヶ町にして、別に橋樹郡保土ヶ谷一町を含む。部内の西南部は丘陵連互して、掃部山伊勢山より税關山に至る。其間には上流社會の住宅及別墅多く、北東部は平坦にして、伊勢戸部、西戸部、櫻木町方面は商業地として、相當なる繁榮區域に屬し、特に横濱驛前より西戸部に至る電車沿線は往來頻繁なりとす。此部内にある主要なる建物には、中等學校に縣立女子師範學校、同高等女學校、同横濱第一中學校あり、神社佛閣に皇太神宮、大聖院あり、官衙に戸部警察署、第一消防署、横濱稅務署、煙草專賣局、横濱驛前郵便局あり、工場に横濱船渠株式會社等あり、病院に十全病院、大西病院、近藤病院、難波病院あり、興行場に横濱劇場あり、其他横濱社會館、中央食品市場等あり。

震動は概して丘陵地帯に緩に、平坦地帯に急なりしが如く、平坦地帯は開港以後の埋立地なりしを以て地盤脆弱に従つて倒潰家屋多く、其中最も多きは、橘、綠、入船、内田、長住、櫻木、花咲、戸部、西戸部の一部と、平沼、岡野、高島、表高島、裏高島の各町なりとす。但し丘陵地帯に在りても、西戸部税關官舎等全潰したるものも少からずと雖も、此等は建物の關係と地之りとに歸因するものと思はる。

此署部内にて火災を免れたるところは、西戸部の約半分、南太田町の大部分、久保町、淺間町、青木町半分、岡野町、平沼町の小部分及保土ヶ谷町なりとす。發火の最も逸早かりしは平沼町、西戸部町、鹽田、戸部町、橘町、綠町伊勢町方面なりしが如し。

部内に於て職工百名以上を役し居たる工場又は會社の倒潰し燒失したるもの、市部に十三、郡部に三あり。其中多數の壓死者を出せるもの、保土ヶ谷町富士瓦斯紡績會社保土ヶ谷工場の四百五十四名、裏高島町東京電氣株式會社横濱支店の六十八名、永住町横濱町船渠株式會社の二十八名、久保町東洋麻糸紡績株式會社の二十八名、平沼町横濱護謨製造株式會社の二十四名、久保町横濱帆布株式會社の二十三名、保土ヶ谷町日本絹燃株式會社保土ヶ谷工場十一

名あり。多數の燒死者を出せる處は、西戸部町御所山の一角、俚俗鶉越と稱する地點、及南太田町天神坂の峻坂なりとす。鶉越は戸部町五丁目より西戸部町縣廳官舎附近に至るの間にして、東西に長く隆起せる丘陵の中央部にある急勾配の石壇にして、丘陵の北面崖下は即ち西戸部町天神山にして、崖上は同町御所山なりとす。坂上裏通の南には戸部町三丁目より西戸部町縣廳官舎に通ずる御所山通あり。震災直後平沼及西戸部鹽田方面に發したる一團の猛火は炎々天を焦し、南進して天神山を襲ひ、伊勢町、戸部町二丁目、四丁目及御所山の東角に起りたる火は僅に西の一角を明け、三面より御所山に迫りたるを以て、御所山及天神山方面の居住民は西に走りて西戸部願成寺山及縣立横濱第一中學校方面の山路に難を避くるより他に開くべき活路なかりき。然れども其の或は家財に執着し或は逃げ後れたるものは猛火の進撃する所となり、天神山方面より鶉越の急坂に遁れんとするに、半腹以上には火焰の蔓延するありて登攀すべからず、背後迫る火は衣服を燒き頭髮を焦して、平地より登ること八尺の地點に約六十名は無殘の燒死を遂げたり坂上にて進退度を失ひたる人々は一方の血路を開かんとして、西南方を隔つる約二十間の地點にある市會議員加藤重利の邸内に鬱々たる樹木のあるを見て、争つて此に奔り、僅に樹陰に身を憩ひたるに、烈火は容赦なく此樹林を燒けば、此も亦身を托する地に非ず、同邸と坂上との間を左奔右馳して、遂に敢なくも焦死したるもの約七十名に上り、此世からなる焦熱地獄圖卷を展開したり。此間に在りて、市内西戸部町天神山二三四番地藥種商川崎藥局事川崎健二郎方廣畑實三は附近住民の應急手當に従事し、後れて鶉越の險に赴き、火焰に包まれて周章する人々を鼓舞し、奮つて坂上に達し、回顧すれば約二丁を隔つる南方に戸部小學校運動場の火氣なきを望み、南方の火勢漸く衰へるを見、衆を靡き、奮然身を挺し、餘炎の裡を踏破して之に赴く。衆多く逡巡未だ決せず、僅に三十名の之に隨ふあるのみ。然も半途にして苦熱に耐へずして落伍するものあり、互に聲を勵まして之を扶け、夢中に驅け脱けて辛うじて其目標の地に到達すれば、氣弛緩して卒倒し、絶息するもの相次ぐ。實三仍ち衆を督勵し、又身を下し人工呼吸を施し

て之を蘇生せしむる等あらゆる活動を續け、運動場周囲の火勢の次第に減退するを待ち、此に夜を徹し、互に其生を全うしたりと云ふ。洵に一美談なり。

南太田町天神坂は南太田町丘陵の斷崖に斜に斗折する峻坂にして崖下に日ノ出町あり。火災の起るや日ノ出町附近の居民は急馳して諸徑路に依り丘陵以西に奔りたるも、日ノ出町と對岸なる長者町、福富町方面の逃げ後れたるものは擧げて天神坂を攀ちて丘陵上に避けんとし、此に蝟集するもの其數を知らず。然も天神坂の危道は震動に依りて其半途に於て路を没し、登ること能はざりしを以て避難者の群は後戻りをして、高さ八間の中腹平地にある左右田俱樂部と永樂町貸座敷一月樓所有の別荘前とより右へ行止の細徑を辿りて奔りたるもの多かりしも、後れて來れるものは進退谷りして一月樓別荘裏手の上なる茂木家別邸の斷崖に攀援せんとするも、勾配急にして登ること極めて難く、多勢の群衆は先を争ひて混亂云ふべからず。偶々茂木邸内の崖上より太き繩を垂下して登攀者に便ならんとしたるもありしが、逃げ後れて中腹の一隅に居残れる群衆は火焰の包圍する所となりて燒死するもの二百八十五名の多きに及びり。

伊勢山は此邊に於ける唯一の高地にして、其の地も濶大なれば、此に難を避くるもの殆んど一萬人に及びり。然も丘陵の四方が火焰の鎖す所となるや、大群衆は彼方に奔り、此方に逃げ山上を各所に移動して、僅に烈火を免れんとしたりしが、山下より半腹に櫛比する人家は盡く其の燒き盡す所となり、皇太神宮の社殿も社務所も焦土となり、猛火は全山を亡ぼさずんば己まざるの勢なり。群衆の命は目前に消えんとす。神樂殿の西に隣する一戸の建物は火を噴き、延るて神樂殿に及ばんとするや、群衆は死力を盡して、神樂殿を押し倒して、其延焼を防ぎ、僅に大修羅場を現出するを免れにき。伊勢山と連れる掃部山は其高さに於てや、伊勢山に劣れるも、其地域は決して狭きにあらず、山頂には廣濶なる空地ありて、半腹は樹木鬱々として洵に好避難所なりしなり。されば伊勢木、花咲町、戸部町邊に居住

する人々が争つて此に難を避けるもの無慮一萬人に及びたるが、山麓の火勢は山頂に及ばせるを以て避難民は彼此轉々し、伊勢山の北方に火焰の吹き到らざる時は兩山の間を往來して急を凌ぎたりしが、暫くにして其中間を斷絶せられて窮地に陥り、掃部山嶺の一角に團々として蹲踞し、之に依りて僅に一縷の生命を繋ぐを得たり。掃部山に屹として聳えたる北面の井伊掃部頭銅像が震動とともに、上壇の臺石諸とも東面に其方向を轉じたるは、奇中の奇と稱すべきなり。

此部内に於ける震災前の戸數は二萬五千一百二十九戸、人口十萬五千一百二十五人にして全燒戸數は一萬五千二百四十四戸、全潰戸數は一千九百三十九戸、死者は一千一百三十五なりき。燒失若しくは倒潰建物中重なるものを舉ぐれば中等學校三、社寺には皇太神宮、大聖院、官衙には戸部警察署第一消防署、横濱稅務署、煙草專賣局、横濱驛、高島驛、横濱驛前郵便局、病院には市立十全病院、難波病院、近藤病院、大西病院等、職工百名以上使役する會社工場十六、諸興行場六、崖崩れ四十三ヶ所、其中家屋を埋没し若しくは破壊せる場所六ヶ所なり。若し夫れ河線又は海岸護岸の崩潰せるものに至りては舉げて數ふべからず。

七、神奈川方面

管内の被害地は埋立地たる棉花、橋本、林、寶、大野町の全部、千若、守屋町の大部分、青木、神奈川、子安町の一部にして、いづれも灰燼に歸し、大小工場等の災厄に罹るもの少しとせざるも、之を市内の各署部内に比すると、割合に其被害少かりしは、高臺の多きと、河水の利用との結果ならずんばあらず。

高島町九丁目、十丁目より青木町、七軒町、宮洲町、宮ノ町、久保町、元町、瀧下町、瀧ノ町方面及東海道沿線たる神奈川方面には倒潰家屋多く、子安町及神奈川町にある工場も亦大部分倒潰し、死者二百餘名、傷者約三千名を出

したるも、青木町高臺及神奈川の西南部に倒潰家屋の少かりしは、蓋し地質の關係に依るなるべし。

青木町字鶴屋町、上下臺町方面は附近の高島町ライディングサン製油會社に起りたる火災の爲に類焼し、高島町九、十丁目青木町字七軒町、宮洲町、宮ノ町、久保町、元町、瀧下町、瀧ノ町、横町、林町、大野町、星野町、幸ヶ谷の一部及神奈川町字西ノ町、棉花町、獵師町、小傳馬町、仲ノ町、九番町の一部は高島町十丁目二十一番地ミシン販賣業者等よりの發火の爲に灰燼に歸し、神奈川町字柳町、富家町、稻荷町、立町は柳町日本リネット會社よりの發火に依りて延焼し、神奈川町字稻荷町、新町、浦島町の一部は稻荷町横濱製綱會社よりの發火の爲に烏有に歸し、字新子安は同町二九八番地船渠職工小林徳次郎方より起りたる火災の焼く所となり、同町字溝下は同所人造絹糸會社よりの發火に依りて焼かれ、青木町に於て全焼戸數一千六百八十五戸、半焼六十九戸、神奈川町に於て全焼一千三百六十戸、半焼二十八戸、高島町に於て全焼八百三十二戸、半焼一戸、子安町に於て全焼二百五戸、其外千若町、守屋町、寶町大野町、林町に於ては全焼六十五戸にして、合計全焼三千四百三十八戸、半焼二十三戸を算せり。之を震災前に於ける市郡の戸數一萬三千百六十戸に比すれば三割八分強の焼失に當る。市郡を通じては全潰一千七十八戸、半潰二千九十六戸、合計三千一百七十四戸にして、之を震災前の一萬四千九百七戸に比すれば四割八分強に當る。其他海岸に沿ひたる大工場は何れも倒潰又は焼失の難に遭ひたるを以て事業休止の已むなきに至り其復舊は頗る困難なりしなり。

神奈川町字神明町七百二十一番地々先京濱電車軌道堤防四五間崩壞して爲に民家七戸を破壊し、一家族を擧げて壓死するの慘狀あり。青木町字幸ヶ谷三百五十七番地々先より六十二番地々先に至る一帶及同所三百六十四番地より三百六十六番地々先に至る北面一帶の約一丈五尺の石垣は崩壞し、爲に半壞家屋數戸を出したりしが、多數の死者を出さざりしは、不幸中の幸なりき。青木町字宮洲町漣橋、碧海橋、裏高島橋、海運橋等はいづれも震動に依りて破壊し更に火災の爲に燔焼し墜落するに至れり。青木町の内七軒町二丁目及宮洲町一帶の埋立地は路面に大龜裂と陥没とを

生じ、國道筋は架空線の落下に依りて交通不能の状態を呈したり。

八、水上方面

震災當日は横濱水上警察署所在地たる西波止場及全所横濱税關大棧橋には、右側に英國汽船エンプレス、オプ、オーストラリヤ號、左側に佛國汽船アンドルレボン號の繋留するあり。當日正午に前者は出航するが爲に夜來其準備に忙しく、早朝より千餘の内外船客は陸續として搭乘し、見送人は群をなして押寄せ、西波止場及同棧橋の上は、肩摩撃の雜踏を呈せり。第一震前約二十分に至り見送人を下船せしめ、五彩のテープは海風に翻りて、行くものと留るものとの間に温き別離の情を惜まれしが、間もなく舷梯は引き揚げられ、瀏亮たる汽笛は鳴りて、纜は將に解かれんとす時方に正午に先つこと二分、撼天搖地の一大鳴動はあなやと云ふ間もあらず、棧橋の一部をざんぶとばかり海中に投げ出して、多數の見送人は水波の中にもんざり打つて墜落し、つゞいて餘震頻々として起り、棧橋の上は須臾にして修羅の巷となり、阿鼻叫喚の聲、助を乞ふ悲鳴、一大混亂は渦卷く如く起つた。

當時港内には各種大小百數十雙の汽船或は碇泊するもの、或は出港せんとするもの、或は入港せんとするもの、固より一様ならず。其中重なるものには東洋汽船コレア丸、大阪商船パライ丸及ロンドン丸等あり。コレア丸は第四號岸壁に繋留して、翌日北米に向はんとして、其準備に忙しく、船内及岸壁等は雜沓せり。ロンドン丸は第五號岸壁にパライ丸は同六號に繋留して、何れも貨物の積卸中なりき。西波止場内及同所より新波止場を経て辨天川尻に通ずる運河及港内第一區辨天川尻の海面一帯には舢舨及多種機械船の碇泊するもの多かりしが、激震とともに海波簸揚し、護岸破壊して、其混亂云ふべからず。

激震とともに西波止場税關棧橋の陸地に接する一部數十間は海中に墜落し、偶々其處に居合たる百餘人は波上に顛

倒し、幸に其の落ちざるものも通路を絶たれ、狼狽出づる所を知らず斯くと見るよりエンプレス、オブ、オーストラ
リヤ號出航準備の爲に、本船附近にありたる小蒸汽船其他通行中の船舶は直に之が救助に従事し、海中に陥りたる橋
上に周章せる人々を救済したりしも、折柄の風浪激烈の爲に、船の進退自由ならず、むざ／＼海中の鬼に化せしめた
るもの其幾何なるを知らず。やがて諸處に起りたる火焰は港務部測候所を焼き、水上警察署及横濱税關其他附近の建
築物を烏有となし、棧橋上屋に飛火し形勢甚だ急なりしかば、同棧橋に繋留せる佛船アンドルレボン號に直に舷梯を
解放し危地に瀕せる避難者を收容し、其後引續き數日に亘りてエンプレス、オブ、オーストラリヤ號とともに救護及
傷病者の診療に盡瘁したり。

第四號岸壁に繋留せる東洋汽船コレア丸は第一震とともに岸壁崩壊し、其餘勢の爲に海上數十間の所に押し出され
偶々岸壁にありし數十の夫及本船關係者等は海中に顛落せり。本船は直に救命艇を下して、之が救助に盡し、其の
大半を救ふを得たり。然も同所第三號上屋よりの發火は瞬く間に延焼し、本船も危難に迫つたるを以て港内第三區に
避難したるも、港岸一帯は又猛火の包む所となり、沿岸に逃げ惑ひたる老幼婦女は將に焼死せんとの狀なりしかば、
本船は汽艇を出して之を收容せり。日漸く没せんとする頃となりては陸上の火勢は猛烈を極め、海上に浮流する重油
は須臾にして一面の火の海を現じ、其危険云ふべからざりしも、同船の汽艇は能く人命を救助するに全力を盡したり
き。特に同船には避難民を指導しつゝ難を海岸に避けたる森岡警察部長の搭乘したるを以て、船員は同船に貯藏する
食糧の全部を提供せんことを申出し、更に同警察部長が同船の無線電信を利用して各地に救援を求むるや、船員は善
く其命を奉じて徹宵震災救護の便宜を與へたりしは、特筆するに價すべく、同船に收容救助したる人員は無慮八百名
に及び。

第五號岸壁に繋留せるロンドン丸及第六號岸壁に繋留せるパライ丸は岸壁崩壊の爲に、一時其繋留所を離脱し、他

に假泊したるも、關内方面萬國橋、横濱税關構内等に避難し來れる多數の避難民を其船内に收容救助せり。

港内の一部なる西波止場灣内及同所より新波止場を経て辨天川筋に通ずる運河及港内第一區辨天川尻一圓の海上に聚合して碇泊する船舶は沿岸の火災の爲に倉皇として、港内の安全地域に脱れんとしたるも、狹隘の河中に在りて操縦意の如くならず、遂に乗組員船夫及其家族等は争ひて船を棄て、身を以て危難を避けんと試みたるも、進退其度を失し、溺死又は焼死するもの其數を知らず、積載貨物及船腹の焼燬するもの亦多く、水路は一時閉塞するに至れり、北港口巡查派出所附近及千若町、新浦島町、海岸通を除くの外は何れも、對岸火災の餘累を受け、人命及舟筏等の災に罹るもの算なく、河中は到る處燒燬船又は沈没船の累々たるあり、死屍浮流して悽慘を極めたり。橋梁は焼け落つるもの、崩れ落つるもの、到る處にこれあり護岸は隨所に破壊し、缺損して、水路の交通は杜絶するに至れり。

九、被 害 調 査

横濱市内の慘狀は畏くも天聞に達し、十月十日 攝政宮殿下には親しく當市に行啓遊ばされて慘禍の跡を御巡視あり十一月五日 皇后陛下にも鳳輦を枉げさせられて、沿く市内を御巡視の上、傷病者を收容したる病院に親臨ありて優渥なる御詔を賜はりたり。

横濱市中の被害を表示すれば次の如し。

諸官署の建物焼失倒潰表

調査別署	所在地	名	稱	燒失倒潰の別	損害の狀況
伊勢佐木町三ノ二五		伊勢佐木町警察署		全燒	全潰後全燒す

賀			加														
元町二ノ八二	眞砂町三ノ四八	山下町一六五	横濱市公園内	山下町六九	北仲通六ノ八二	本町一ノ一二	堀川町通リ	山下町二三二	本町一ノ三	北仲通六ノ八二	山下町二〇三	全	海岸通リ一ノ一	港町一ノ一	海岸通一ノ四	北仲通	本町一ノ三
元町郵便局	眞砂町郵便局	山下町郵便局	横濱市役所社会課	全 省植物検査所	全 省絹物検査所	農商務省生絲検査所	横濱市役所衛生課	中央電話局	横濱郵便局	航路標識管理所	加賀町警察署	横濱測候所	神奈川縣港務部	横濱市役所	横濱税関	横濱地方裁判所	神奈川縣廳
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	倒潰後焼失	全	全	類焼	全	全	全	全	全	全	全	倒潰後焼失	全	全	倒潰後飛火の爲め焼失

署	部	戸
扇町五丁目 石川町六丁目 中村町 全	西戸部町三二九 全 戸部町六ノ一五二 花咲町十丁目 裏高島町一ノ一 全	全 九〇 全 二〇九 全 七四 全 巴黎馬領事館内 全 一七〇 全 五一 全 六七
壽警察署 第二消防署時田出張所 全 署中村分署 横濱税關中村町派出所	戸部警察署 第一消防署 横濱稅務署 東京煙草專賣局横濱出張所 横濱停車場 横濱驛前郵便局	瑞西領事館 丁抹領事館 巴黎馬領事館 チエツクルベリヤ領事館 英國商務官 加奈陀商務官 佛蘭西商務官
全 全 全 全	全 全 全 全 全 全	全 全 全 全 全 全 全
全 全 全 全	全 全 全 全 全 全 午後六時頃類焼	全 全 全 全 全 全 全

署	上	水	八幡橋分署	山手町署	神奈川署
全	全	全	全	山手町	青木町元町四三
全	全	全	根岸町	山手本町警察署	神奈川郵便局
全	全	全	根岸郵便局	横濱刑務所	神奈川縣第二衛生試験所
横濱西波止場	全	全	横濱水上警察署	根岸郵便局	全
全	全	全	全 上附屬建物	全	全
全	全	全	東京逓信管理局横濱出張所	全	全
全	全	全	全 上附屬建物	全	全
全	全	全	横濱税關旅具検査場	全	全
全	全	全	全 監視部	全	全
全	全	全	全 棧橋一號上屋	全	全
全	全	全	全 棧橋二號上屋	全	全
全	全	全	全 棧橋二號上屋	全	全
			全 倒潰	全	全
			全 燒	全	全
				全潰後燒失せり	全燒
				一部燒失を免れたるも倒潰して使用に堪へず 全潰し使用に堪へず	一部燒失し一部殘存せり

多數の死傷又は行方不明者ありたる場所

調査別	種別	多数死傷者ありたる場所	死者		傷者		行方不明		合計	死傷行方不明な りたる原因	
			男	女	男	女	男	女			
伊勢	伊勢佐木町吉田町	吉田橋附近	三七	三二	一四	八	一四	二	九七	逃走中火焰に包まれ焼死又は川に没し溺死	
	柳町八		四三	五四	七	二	二	二六	一三	全	
	伊勢佐木町二ノ二	福井屋角道路	二	二	三	一	二	二	四	一四	逃路に迷ひ火焰に包まれ焼死
	梅ヶ枝町	東本願寺附近道路	三三	五八	二五	一	二	四	六	一三四	全
	全	別院境内	四	八	四	一	八	三	一	一九	全
	末吉町五丁目	末吉橋附近	一五	一八	四	一	七	一	二五	三三	全
	野毛町二丁目	都橋附近	一	一	一	一	一	一	一	二	全
	宮川町	宮川橋附近	三五	四	八	一	一	一	一	一六	全
	日ノ出町一丁目	鐵道省敷地	一八	二九	三七	一	一	一	一	三七	全
	三春町	全	一六	二七	一	一	一	一	一	三七	全
木	伊勢佐木町一ノ一	野澤屋吳服店	八	三	四	二	三	一	四	四五	建物倒潰し下敷となり 壓死
	全 町二ノ一七	越前屋吳服店	三	二	八	一	三	一	二	三	建物倒潰し下敷となり 壓死又は焼死
	賑町一ノ三	喜樂座	九	七	八	一	一	一	二	一四	全
	南太田町八九二	服部紡績會社工場	一	一	一	一	一	一	一	一	全
町	長者町五ノ五四	長者町郵便局	三	三	四	一	一	一	四	一	全
	賑町一ノ二	朝日座	五	六	一	一	一	一	二	二	全
署											

町	賀	加	合 計	
			一八ヶ所	
山下町五	全 二〇	東洋汽船株式會社 内 グランドホテル カリエンタルホテ ル	三	三
全 一〇四	全 一〇四	福音印刷所	三	三
全 一七〇	全 一七〇	郵便局電話料金課	三	三
全 二一〇	全 二一〇	菅川工場	三	三
全 九〇	全 九〇	シーエルヘグ工場	三	三
山下町二五三	全 二五三	屑糸商	三	三
全 二七九	全 二七九	シーエルマル商會	三	三
本町六ノ八二九	全 二八九	屑糸選別工場	三	三
本町六ノ八一	全 二八一	大勢屋旅館	三	三
全	全 二八一	上州屋旅館	三	三
尾上町	全 二八一	横濱郵便局本局	三	三
附近	全 二八一	馬車電車通交又点	三	三
北仲通	全 二八一	横濱地方裁判所	三	三
合 計			八六	八六
合 計			〇三	〇三
合 計			四八	四八
合 計			三六	三六
合 計			二二	二二
合 計			二六	二六
合 計			七	七
合 計			一〇五	一〇五
合 計			三六	三六
合 計			三三	三三
合 計			五八	五八
合 計			三六	三六
合 計			三三	三三
合 計			五八	五八
合 計			三六	三六
合 計			三三	三三
合 計			五八	五八

第二章 横濱市 九、被害調

署 部 戸		署											
久保町	平沼町	長住町	裏高島町	西戸部町	南太田町	合 計	山下町二四三	相生町	真砂町一ノ四	太田町四ノ六五	住吉町五六丁目	全 三丁目	辨天通五丁目
横濱絹布株式會社	横濱護謨製造株式會社	横濱船渠株式會社	東京電燈株式會社 横濱出張所	東洋麻糸紡績株式會社	御所山一六二道路	二三ヶ所	山下町海岸附近	川崎銀行附近	蒲鉾商石塚辰五郎	飲食社齋藤巳之吉	大道の辻	原合名會社内	正金銀行附近
七	一四	三〇	一四	四	一四五	五八四	四〇	二〇	六	六	一四	一五	六〇
一六	一〇	一〇	二四	四	二五	三八三	八	一五	四	四	八	七	五〇
一	一	一	一	二	五	一〇六	三〇	一	一	一	一	一	三〇
三	二	三	二	二	二五	〇七三	六	三	一〇	一〇	三	三	一四〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三全	二全	三全	二全	二全	二七五	〇七三	六全	三全	二全	二全	三全	三全	一四全
					高臺に避難中火焰に包 まれ焼死 崖下より焰に追はれ避 難せんとして焼死 云建物倒潰壓死								

合 計	署 上 水							分 署	八幡橋 磯子町	町 署	山手本 千代崎町	合 計	全	
	全	全	全	全	全	全	全							横 濱 市 内 の 内
二八 三三	三 四〇	六 九	三 三	三 五	三 七	三 七	三 七	七 九	七 九	三 一	三 一	二〇 四 二 九 四	一 二	二 ノ 二 二 全
五〇 四	七 一	三 五	四 五	五 七	三 〇	三 〇	二 七 四	一 六	一 六	三 三	三 三	三 九 八	二	
五〇 四	七 一	三 五	四 五	五 七	三 〇	二 〇	二 七 四	一 六	一 六 の 爲 壓 死	三 三 全	三 三 全	三 九 八 全	二 全	

第二章 横濱市 九、被害調

神奈川署なし									
總計	七六ヶ所	一五、三三	一五、三三	一五、三三	二、一六	一、五七	二、六六	三、三三	一、八〇

名士の死傷

署別	知名士の		遭難の日時	死傷の別	遭難の概況
	爵官位階	氏名			
伊勢佐木町	市會議員	和田門作	大正十二年九月一日午前十一時五十八分頃駿河町二ノ六	壓死	住居倒潰下敷となり家族六名と共に壓死
加賀町	横濱地方裁判所々々長	末永晃庫	全年全月全日於横濱地方裁判所倒潰	全	執務中廳舎倒潰
全	全 檢事	田中卓一郎	全	全	全
全	全 判事	宮本安藏	全	全	全
全	全 檢事	瀬戸覺三郎	全	全	全
全	全	太田國雄	全	全	全
全	全	丹波良忠	全	全	全
全	全	福鎌文也	全	全	全
全	全 判事	西田尚義	全	全	全
全	全 檢事	小菅省三	全	全	全
全	全	卷一 一郎	全	全	全

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
支那國領事	和蘭國領事	米國總領事代理	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
長	氏名不詳	キリヤツフ	宗 尙	篠田武雄	片山藤兵	新居 茂	國重貞熊	柴田基二	竹内 英	山口喜三	高久忠一	二見友三	佐藤博愛	森 光陰	渡邊隆雄	關 讓	内山久太郎	全
福全町一三五	全	山下町二三四領事館内	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	領事館倒潰の爲	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

全	市會議員	飯田久松	全	町一八五	全	住宅倒潰の爲め
全	山下郵便局長	早川捨五郎	全	町一〇五	全	全
全	北仲通郵便局長	武田武吉郎	傷	郵便局内	全	全
全	航路標識管理局長	吉田兼三	歴死	管理局内	全	全
加賀町	航路標識管理局技師	服部正人	傷	全	全	全
全	港務所港務官	國友富太郎	全	神奈川県港務所内	全	建物倒潰の爲め
全	露國領事	ウエルム	全	山下町七領事館内	全	全
加賀町	代議士	若尾幾造	傷	本町四丁目	全	建物倒潰の爲め
全	英國義勇團長	グリフィン	全	山下町八九	全	全
全	稅關検査課長	早川繁雄	死	横濱稅關内	全	全
全	電信課長	橋本忠藏	全	横濱郵便局内	全	全
全	横濱測候所技師	朝倉慶善	全	横濱測候所内	全	全
全	英國副領事	へ	全	山下町領事館内	全	全
全	横濱取引所庶務課長	井澤健次郎	全	本町取引所内	全	全
戸部	市會議員	平沼亮三	傷	自宅に於て	全	全
壽	全	石井政太郎	死	横濱市役所に於て	死	市役所倒潰の爲め
山手本町	フエリス女學校長	カイバイ	死	全校教室に於て	死	學校倒潰の爲め

道路、橋梁、河川、田畑市部

(本表は横濱市役所調査に依る)

種	別	員	數	損	害	高
河川	堤防決潰及缺損		二〇、八八〇			一〇、一五〇、〇〇〇
		大下水破損	二四、二七〇			二、四九四、七〇〇
道路	決潰埋没毀損	國道	一〇一、一〇〇			一、三三七、一〇〇
		縣道	七六、五八〇			九八七、九〇〇
		市道	三三一、八三〇			四、五三三、五〇〇
		計	五一〇、五〇〇			六、八三八、六〇〇
橋梁	燒失墜落破損	國道	一一			六二六、〇〇〇
		縣道	八			四六七、二〇〇
		市道	八八			三、六八一、五五九
		計	一〇七			四、七六四、七五九
田畑	合計		五九町八段五〇〇歩			一八、五三六
		合計				一四、二六六、五八五

橋梁の被害

橋梁名	被損程度	修繕方法	完成月日	工事施工者	摘 要
谷戸橋	右岸約十尺墜落	墜落を上る	十月十七日	鐵道二聯隊	鐵橋(トラス)通行支障なし
前田橋	橋板全部焼失	總替を要す	十月五日	工兵十二	同 通行支障なし
西の橋	桁及橋板全部焼失	修繕済	九月十九日	交 通 係	木橋
ドンク橋	墜落	解體引揚	九月二十一日	全	全
龜の橋	全部焼失	架設を要す	全	工兵十二	全
翁橋	全	歩道橋	十月三日	全	全 通行支障なし
松影橋	全	架設せず			全 通行支障なし
車橋	異狀なし				全
東橋	西橋臺沈下橋脚桁殘	修繕を要す	九月二十九日	工兵十二	全
三吉橋	全部焼失	架設を要す	九月二十八日	全	全
道場橋	全	全	九月十九日	交 通 係	全
久良岐橋	兩橋臺破損	修理	九月十四日	工 兵	全
日枝橋	橋臺沈下	修理を要す	九月十三日	交 通 係	全
共通橋	全部焼失				全
葦谷橋	墜落焼失	架設を要す		交 通 係	鐵橋(エビーム)
清水橋	異狀なし				木橋通行支障なし
辨天橋	全				鐵橋(エビーム)全

大後	却	宮川	長志	旭	黄金	花園	港	豊國	吉田	柳	錦	録	瓦斯	紅葉	雪	花吹	櫻
橋全	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋
橋全	橋臺沈下橋面燒失	全部燒失	全部燒失	全部燒失	全部燒失	橋面燒失	橋面全部燒失大破 崩壊	三橋の内一橋墜落	異狀なし	全部燒失	橋面燒失	全部燒失	異狀なし	全部燒失	全部燒失	全部燒失	全部燒失
修理済	架設を要す	架設を要す	架設を要す	架設を要す	架設を要す	修理済	修理を要す	架設を要す	架設せず	修理済	架設を要す	架設を要す	架設を要す	架設を要す	架設を要す	架設を要す	架設を要す
九月十三日	九月九日	九月三十日	九月二十三日	九月二十二日	九月十五日	九月二十一日				九月十五日				九月二十五日	十月九日	九月二十六日	十月八日
交通	交通	交通	交通	交通	交通	交通				交通				交通	交通	交通	交通
兵係	兵係	兵係	兵係	兵係	兵係	兵係				兵係				兵係	兵係	兵係	兵係
全(エビーム)全	全(トラス)全	木橋	全	全	全	鐵橋(トラス)通行支障なし	全	全	石橋アーチ	木橋	鐵橋(トラス)通行支障なし	木橋	鐵橋(エビーム)	木橋	全	全	全

山	一	道	榮	末	沼	平	平	萬	全	築	舖	扇	平	石	材	淺	月
王	本	慶		吉	野	岡	沼	里		地	田	田	月	崎	木	山	部
橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋
異常なし	全	全部焼失	橋面大部分焼失	全部焼失	橋臺崩壊	橋臺沈下	兩橋臺崩落橋脚一部破損	全	全	橋墜落	全	全	全	全	異常なし	全部焼失	橋面全部焼失
	架設せず	架設を要す	修理を要す	架設を要す	全	修理済	修理を要す			架設を要す	全	全	修理済		架設を要す	片側修理済	
		九月十八日	九月十四日	九月二十三日	九月十六日	九月十五日	九月二十六日			十月八日 (3)九月十四日 (2)九月十四日 (1)九月六日			九月十一日				九月十二日
		交通係	交通係	兵	全	全	交通係			工兵七			交通係				交通係
通行支障なし	全	木橋	鐵橋(エビーム)通行支障なし	木橋	木橋通行支障なし	全	全	全	全	鐵橋(エビーム)通行支障なし	全	全	木橋全	全	通行支障なし	鐵橋(エビーム)	木橋

吉濱橋	八幡橋	坂下橋	根岸橋	中村橋	千歳橋	日本橋	横濱橋	長鳴橋	武蔵橋	山吹橋	千秋橋	鶴ノ橋	権三橋	蓬萊橋	駿河橋	南吉田橋	萬治橋
	兩橋臺被害	異狀なし	左岸橋臺崩壊	異狀なし	全	全	兩橋臺崩壊	全	全部焼失	橋面一部焼失	全部焼失	橋臺沈下其他異狀なし	全部焼失	橋面焼失	三分の一橋面焼失	全	全部焼失
修理済	修理を要す		修理を要す		全	全	修理済	全	架設を要す	修理	架設を要す	修理済		全	修理を要す	架設せず	修理を要す
九月十二日	九月十一日		九月十一日		九月二十三日	全	九月十四日			九月十二日	十月十日	九月十日		九月二十四日	十月五日		九月二十九日
交通係	交通係		交通係		工兵	全	交通係		工兵	交通係	工兵	交通係		工兵十四	交通係		工兵十四
鐵橋(プレートガーダー)通行支障なし	全全	全全	全全	全全	全全	全全	木橋通行支障なし	全	全	木橋通行支障なし	木橋	全 通行支障なし	木橋	鐵橋(トラス)	鐵橋(エピソード)通行支障なし	全	木橋

第二章 横濱市 九、被害調

千島橋	村雨橋	山下橋	入江橋	萬代橋	幸橋	星野橋	寶橋	宮淵橋	漣橋	碧海橋	八千代橋	高島橋	瀧の橋	新日間橋	月見橋
全	橋臺崩壊	橋結一部崩壊	橋臺崩壊	全	全	橋異狀なし	全	全	全部焼失	全	全	全部焼失	橋面一部焼失	橋臺破壊	其他異狀なし破損
				全		全	全	全	全	架設を要す	全	架設を要す	全	全	全
九月十八日	九月十日	九月十五日	九月十日	全	全	全	全	全	九月十六日	全			九月十六日	九月十九日	九月十五日
全	工	全	交	全	全	全	全	全	全	全	未		全	全	全
	兵		通								定				
			全	全	全	全	全	全	全	全	全	木橋	全	全	鐵橋(エビーム)
													全	全	通行支障なし

横濱市震火災被害調査表

(大正十二年九月一日)

第一建物

種別	官公署	公使館及領事館	學校及圖書館	公共病院其他 公共建物	神社佛閣	
全潰 數棟 數戶 數坪 害損	115 — 215,707 14,793,707	33 — 1,605 1,168,475	164 — 6,360 894,210	22 — 2,386 399,410	46 — 3,116 775,140	
	半潰 數棟 數戶 數坪 害損	37 — 990 7,120	6 — 597 22,110	10 — 5,017 196,025	9 — 811 28,530	26 — 1,198 49,350
		全燒 數棟 數戶 數坪 害損	75 — 9,318 1,336,050	14 — 459 374,780	79 — 32,090 3,538,720	58 — 5,123 1,644,635
半燒 數棟 數戶 數坪 害損			— — — —	— — — —	— — — —	7 — 560 68,000
	流失 數棟 數戶 數坪 害損		— — — —	— — — —	— — — —	— — — —
		計 數棟 數戶 數坪 害損	227 — 36,015 16,137,046	53 — 2,706 1,565,365	253 — 43,467 4,628,955	96 — 8,880 2,140,575

計	其 他	住 宅	劇 場 及 寄 席	工 場 及 倉 庫	銀 行 會 社	教 會 堂
棟 9.106 戸 7.992 坪 270.199 円 133.766.392	2.183 — 49.358 81.555.230	5.332 7.992 93.359 4.104.380	— — — —	1.185 — 87.112 29.752.391	17 — 648 7.350	10 — 648 7.350
棟 5.148 戸 11.615 坪 117.972 円 3.112.171	559 — 13.888 133.040	4.380 11.615 67.898 7.166.696	— — — —	99 — 25.369 443.250	12 — 2.192 75.100	1 — 12 950
棟 30.366 戸 58.981 坪 868.032 円 376.202.887	3.244 — 77.244 5.742.965	25.324 58.981 606.477 116.611.069	26 — 29.25 1.926.700	441 — 65.108 73.828.940	1.126 — 64.725 169.336.588	26 — 1.433 1.005.650
棟 19 戸 68 坪 1.718 円 273.400	— — — —	7 68 173 5.650	— — — —	2 — 800 176.000	2 — 110 50.000	1 — 75 3.750
棟 2 戸 650 坪 6 円 300.975	2 — 6 975	— 650 — 300.000	— — — —	— — — —	— — — —	— — — —
棟 44.642 戸 79.306 坪 1.257.927 円 513.716.925	5.887 — 140.476 87.433.210	35.043 79.306 767.907 122.287.893	26 — 2.925 1.926.700	1.727 — 178.389 104.200.582	1.166 — 67.675 169.504.688	38 — 2.023 1.260.331

第二章 横濱市 九、被害調

(二) 公使館及領事館

調査署別	種別	全		潰		半		潰		全		燒		合		計
		棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	
伊勢佐木町		二五	一、二六〇	二	一、二二五											
加賀町																
戸部																
壽奈川																
山手本町																
八幡橋		八	一、二九〇													
水上																
計		二五	二五、七〇七	二	一、四七〇	七	九九〇	七	七、二二〇	七	九、三八一	三	三六、〇一五	二	三六、〇一五	一、六
神奈川																
山手本町																
八幡橋		三	七八六													
水上		二	一四七													
計		二五	二五、七〇七	二	一、四七〇	七	九九〇	七	七、二二〇	七	九、三八一	三	三六、〇一五	二	三六、〇一五	一、六
伊勢佐木町																
加賀町																
戸部																
壽奈川																
山手本町																
八幡橋		八	一、二九〇													
水上																
計		二五	二五、七〇七	二	一、四七〇	七	九九〇	七	七、二二〇	七	九、三八一	三	三六、〇一五	二	三六、〇一五	一、六

計	三二	一八五	二、一六八、四七五	六	五九七	三、二一〇	一四	四九九	三七四、七八〇	五三	二、七〇六	一、五六五、三六五
		坪	円		坪	円		坪	円		坪	円

(三) 學校及圖書館

調查署別	種別	全		半		全		合	
		棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數
伊勢佐木町	一六	一、五七六	三三三、三三〇	二	四四〇	一三	二、二四二	三三	四、三五八
加賀町	一三五	二、〇三四	一八四、〇九〇					一三五	二、〇三四
月部	六	一、三〇〇	一五八、六〇〇	四	三六〇	二	二、六〇〇	二二	四、三〇〇
壽奈川	四	一、一三五	三三、五〇〇	三	三、六五六	四	二、六、五二九	四八	三一、二〇一
山手本町	一	二五〇	一、八〇〇			一	三〇〇	二	五五〇
八幡橋	三	三五	三、〇〇〇	一	五六一	一三	三、四七	三	五九六
水									
計	一六四	六、三六〇	八九四、二〇〇	一〇	五、〇一七	七九	三三、〇九〇	二五三	四三、四六七
		坪	円		坪	円	坪	坪	円

(四) 公共病院其他公共建物

調査署別	種別		棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害
	全	半															
伊勢佐木町	四	四	四	三二	五四、〇〇〇	三	三五〇	七、八五〇	四	四七〇	七一、五〇〇	一	一一	一一、〇五〇	二	二七	三二、〇五〇
加賀町	四	四	四	二八	二六、二五〇	一	一三〇	四、〇〇〇	四	一、三〇〇	四、〇〇〇	一	一	五、〇〇〇	四	二八	一六八、二五〇
戸部	一	一	一	六〇	五、〇〇〇	一	七九	八、二〇〇	一	三、〇〇〇	五、〇〇〇	一	一	一、六〇〇	五	二七	四一五、〇〇〇
壽	一	一	一	六〇	五、〇〇〇	一	七九	八、二〇〇	一	三、〇〇〇	五、〇〇〇	一	一	一、六〇〇	五	二七	四一五、〇〇〇
神奈川	一	一	一	六〇	五、〇〇〇	一	七九	八、二〇〇	一	三、〇〇〇	五、〇〇〇	一	一	一、六〇〇	五	二七	四一五、〇〇〇
山手本町	一三	一三	一三	一、八七	一七、一六〇	五	三九九	八、四八〇	四〇	二、六四	一、〇八〇、三五	六	二一〇	六三、〇〇〇	六	四	五、〇六〇
八幡橋	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
水上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三三	三三	三三	三、三六六	三九、四一〇	九	八二一	二八、五三〇	五八	五、二二三	一、六四四、六三五	七	五六〇	六八、〇〇〇	九六	八八八〇三	一四〇、五七五

(五) 神社 佛閣

調査署別	種別		棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害
	全	半												
伊勢佐木町	一五	一五	一五	一、二九八	三三、〇〇〇	一〇	三三〇	一六、五五〇	二八	一、二四七	五五、七〇〇	五三	二、八五五	八九〇、三五〇

調査署別	種別		潰			焼			合 計		
	棟數	坪數	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害
伊勢佐木町	二	七三	—	—	—	—	—	—	二	五六	一三六、八五〇
加賀町	六	三三	—	—	—	—	—	六	三九	二六、四〇一	
月部	—	—	—	—	—	—	—	—	三	三〇	二八、四〇〇
壽	一	三五	—	—	—	—	—	一	三	一五〇	
計	九	一四二	—	—	—	—	—	九	四六	一三六、八五〇	

(六) 教會堂

種別	潰		焼		合 計	
	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數
加賀町	四	一三、一六〇	—	—	四	一三、一六〇
月部	四	五、五〇〇	—	—	四	五、五〇〇
壽	四	二、〇〇〇	—	—	四	二、〇〇〇
神奈川	七	一、〇〇〇	—	—	七	一、〇〇〇
山手本町	二	一八	—	—	二	一八
八橋	—	—	—	—	—	—
水上	—	—	—	—	—	—
計	二六	二一、六六〇	—	—	二六	二一、六六〇

調査畧別	全		潰		半		潰		全		燒		半		燒		合		計
	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	
神奈川	1	6	1	2,100	1	300	1	3,000	1	75	1	7,000	1	13	1	13	1	13	3,000
山手本町	1	6	1	2,100	1	75	1	8,640,000	1	75	1	7,000	1	13	1	13	1	13	8,640,000
八幡橋	1	6	1	2,100	1	75	1	950	1	75	1	7,000	1	13	1	13	1	13	950
水上	1	6	1	2,100	1	75	1	950	1	75	1	7,000	1	13	1	13	1	13	950
計	10	503	1	1,996,681	1	1,143	1	9,600	1	1,433	1	1,059,950	1	75	1	3,750	1	38	1,600,331

(七) 工場及倉庫

調査畧別	全		潰		半		潰		全		燒		半		燒		合		計
	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	
伊勢佐木町	7	10,935	2	7,127	2	1,563	2	5,670	2	1,501	2	1,334,450	2	24	2	24	2	24	3,112,477
加賀町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸部	5	660	2	648,000	2	1,500	2	19,880	2	95	2	892,900	2	24	2	24	2	24	700,415
壽	1	746	1	62,575	1	74	1	4,500	1	133,377	1	89,390	1	250	1	250	1	250	957,580
神奈川	1	8,500	1	208,000	1	391,000	1	3,600	1	4,700	1	900,000	1	800	1	1,760,000	1	97	3,340,000
山手本町	1	45	1	3,600	1	3,600	1	3,600	1	6,700	1	913,100	1	23	1	6,745	1	23	1,370,750
八幡橋	1	1,103	1	85,875	1	83,282	1	151,200	1	6,700	1	913,100	1	19	1	4,284	1	19	1,370,750

調査著別	種別	潰		潰		全		焼		合		計
		棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	棟數	坪數	
伊勢佐木町						一三	一、七二七	二	一、七二七	一三	一、七二七	六三〇、五〇〇
加賀町						六	六五七	六	二九、六五〇	六	六五七	二九、六五〇
戸部						四	二八二	四	四、六〇〇	四	二八二	四、六〇〇
壽奈川						三	二六〇	三	三、四〇〇	三	二六〇	三、四〇〇
山手本町												
八幡橋												
水上												
計						二六	二、九三二	二六	二、九三二	二六	二、九三二	九六六、七〇〇

(八) 劇場、觀物場及寄席

計	一、八七二、二〇〇	坪	九、七三三、元	円	九、五三六、九	坪	四、四三二、五	円	四、四三六、五、一〇八	坪	八、七三三、	円	八二六、九四〇	二	坪	八〇〇	坪	一七六、〇〇〇	円	七、九二一、	坪	一、七八、	坪	三、八九	坪	〇、	坪	三、五八
---	-----------	---	---------	---	---------	---	---------	---	-------------	---	--------	---	---------	---	---	-----	---	---------	---	--------	---	-------	---	------	---	----	---	------

(九) 銀行會社

調査署別	種別		潰			焼			合 計		
	棟數	坪數	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害	棟數	坪數	損害
伊勢佐木町	四	二二	一	一	六五〇	八七	三、七八四	〇四八、七二〇	九	四、〇四六	〇八三、三五〇
加賀町	二	一七	一	一	一四、〇〇〇	九五	四九、二九三	一六七、三六八	五九	一、一八五	一七六、三六八
戸部	二	四三	一	一	六九、九〇〇	四二	八、九三〇	一四三、五〇〇	三	二、七一九	三七、四〇〇
壽	四	四三	一	一	五、五〇〇	二六	二、二七	七三九、五〇〇	三	二、七一九	七五、〇〇〇
神奈川	一	一	一	一	三、一五〇	五	五四〇	一〇四、〇〇〇	七	五八五	一〇六、二五〇
山手本町	一	一	一	一	二、一〇〇	一	五二	二四、五〇〇	二	五二	二四、〇〇〇
八幡橋	七	一九〇	一	一	二、一〇〇	一	五二	二四、五〇〇	九	三三六	三三、三〇〇
水上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一七	六四八	三	三	七五、一〇〇	二六	六四、七五	三六九、五八	二六	六七、六七五	四一五、一八八

(六) 住宅